

東京都立福生高等学校定時制課程 令和7年度学校経営報告

<目標への取組と自己評価>

項目	目 標	取組と自己評価	達成状況
学習指導	一人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」の実現に向けた授業改善を行う。他校の指導教諭の授業見学や他校の研修会に参加し授業力向上に努める。	① ONE ノートを活用した授業を通じ、個別最適な学びの実践を進めた。 ② 校内研修を通じて、ICT 活用に対する教職員の理解を深めた。 ③ 研究授業を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図った。	B
	授業内容の定着が不十分な生徒対象の補習・補講を日常的に実施し、基礎・基本の定着を図る。また、毎学期家庭に成績等を郵送し、生徒の学習状況等の共通理解を図ることにより、中途退学者を未然に防ぎ、個別の学力伸長とともに進路実現を図る。	① 教育相談委員会や生徒支援員会等で課題を抱える生徒の状況を共有し、スクールカウンセラーと連携しながら授業を含めた支援につなげることができた。 ② 学習面で支援が必要な生徒に対して、状況に応じた補習を随時実施することができた。 ③ 保護者等への連絡や家庭訪問を通じて、生徒の学習状況について共通理解を図ることができた。 ④ 中途退学者は11名となり、前年度(6名)を上回る結果となった。	B
	教育のDXを推進し、知識習得型と探究型の学びのベストミックスを図る。	① 設備不良に伴い Teams を活用したオンライン授業を実施し、学習活動を継続することができた。 ② 日々の連絡を Teams で行い、情報共有の効率化を図った。	A
募広集報活動	生徒募集委員会と教務部を中心に授業公開・学校説明会等の広報活動と募集活動を組織的に行う。随時、学校見学を受け付け、近隣中学校等への訪問を継続する。学校案内・ポスター・学校紹介DVDを作成し、各行事毎に写真等をHPに掲載し、学校紹介を充実させる。	① 1・2学期に学校案内、学校紹介DVD、ポスターを更新し、本校の教育内容や特色の発信を充実させた。 ② 11月15日及び11月19日に学校説明会を実施し、参加者数は47名となり、前年度(25名)を大きく上回った。 ③ 学校ホームページを35回更新し、生徒会活動をはじめとする学校の取組を積極的に発信した。 ④ 教務部を中心に中学校8校を訪問し、本校の教育内容や特色について直接説明を行った。 ⑤ 1・2学期の授業公開では、近隣中学生や地域の方々を中心に54名が来校し、前年度(34名)を上回る参加があった。 ⑥ 年間を通じて随時学校見学を受け付け、希望者に対して継続的に対応することができた。	B
生活指導	生活指導指針に基づき、生活指導部と学年が連携して規範意識を育成するとともに基本的な生活習慣の確立を図る。	① 教育相談委員会を年間52回実施し、生徒理解を深めるとともに、日常の生徒指導に効果的に生かすことができた。 ② 生活指導部を中心に、集会・巡回・校門指導及び日常の授業規律の徹底を図り、規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立につなげた。 ③ 授業や各種行事等において時間を守る意識の向上を図り、継続的な指導により授業規律の確保に努めた。 ④ 教育相談委員会と連携し、スクールカウンセラーによるカウンセリングを年間を通して実施することで、生徒の情緒の安定及び教員の生徒理解の向上に役立てた。	B
	いじめ・体罰を許さない校内の雰囲気を教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認め合う指導を行う。	① 教育活動全体を通じて、軽微ないじめも決して見過ごさない姿勢を示すとともに、その都度保護者への通知等を行い、いじめ・体罰を許さない学校の方針を明確に示した。 ② 教員対象のサービス事故防止研修を年2回実施し、その中で体罰防止に関する内容を取り上げ、教職員の意識向上と未然防止を図った。	B
	生命を尊重する心の育成やSOSの出し方に関する教育など、ストレスへの対処方法を身に付けさせ自殺予防を図り、特別支援教育など生徒一人一人に合わせた教育を行う。	① 産婦人科医による講演や「がん」教育、薬物乱用防止教育を通じて、生徒が自分の命や健康を大切にする意識を育む取組を行った。 ② 学期はじめに面談週間を設定し、生徒一人一人の状況把握に努めた。 ③ 教育相談委員会を通じて教員間の情報共有を徹底し、組織的な生徒支援体制の充実を図った。	A

特別活動	体力テストや球技大会等の体育的行事を計画的に実施し、体力向上を進めるとともにチャレンジ精神を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 体育の授業内で体力テストを実施し、生徒の体力向上に向けた取組を進めた。</li> <li>② 1学期にスポーツ大会を実施し、運動に親しむ機会を通じて体力向上を図った。</li> <li>③ 各部活動の指導を積極的に進め、生徒が主体的に活動に取り組む姿勢を育むことができた。</li> </ul>	B
その他	計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。人権尊重教育推進校として、授業や部活動及び講演会などを通じて、生徒が「相手を思いやる心」を育む。また、研究発表に向け準備をする。勉強、行事、部活動等、すべての教育活動を通じて、生徒の「チャレンジ精神」と「自立心」を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 業務の効率化を進めた結果、週当たりの在校時間が60時間を超える教員はいなかった。</li> <li>② 会議のデジタル化を推進することで、紙ベースの資料を徐々に削減することができた。</li> <li>③ 部活動においては、生徒主体の活動を進めることができた。</li> <li>④ 人権推進校として一人一人を大切にする取組を継続し、体罰・暴言「0」、いじめ「0」を達成することができた。</li> </ul>	B

### <学校運営連絡協議会委員評価>

学校が良くなったと答えた協議委員（全5名） そう思う 3名 多少そう思う 1名

### <数値目標とその結果>

数値目標	7年度目標	7年度実績	6年度実績	5年度実績
授業満足度	95%以上	82.0%	86.0%	91.6%
中途退学者	0名以下	11名	6名	4名
転入学者		8名	11名	5名
進路決定率	95%以上	100%	87.0%	90.9%
全国大会出場	1部以上	0部	0部	1部
一次入試応募倍率	1.0倍以上	0.30倍	0.37倍	0.57倍

### <次年度以降の課題と対応策>

項目	課題	対応策	重要度
学習指導	学習面で課題のある生徒の対応の充実。指導と評価の一体化の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の実態に合った授業を展開し、生徒に「分かる」楽しさを理解させる。</li> <li>② 面倒見の良い授業を実施するために、授業前、個別指導期間、長期休業中の補習等を充実させる。</li> <li>③ 指導と評価の一体化を進め、教員の指導改善を行う。</li> </ul>	B
募広集報活動	組織的な広報活動と募集活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教務部と生徒募集委員会を中心に、授業公開・学校説明会等の広報活動を計画的かつ組織的に実施する。</li> <li>② 随時学校見学を受け付けるとともに、近隣中学校への訪問を継続し、本校の教育内容や特色を直接発信する。</li> <li>③ 学校案内やホームページを活用し、生徒の活動の様子や学校の魅力を積極的に発信することで、学校理解の促進を図る。</li> </ul>	B
生活指導	規範意識の育成と基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生徒自ら校則の在り方を主体的に考え、主体性と責任感に基づく規範意識を育成する。</li> <li>② 生徒一人一人の生活背景を踏まえつつ、登校・時間管理・学習態度に関する指導を積み重ね、基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> </ul>	A
特別活動	行事・部活動において生徒の主体性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 行事・部活動において生徒が意見を出し合い、合意形成を図りながら取り組む活動を充実させる。</li> <li>② 成果だけでなく取組の過程を評価し、生徒の主体的な挑戦を後押しする指導を行う。</li> </ul>	A

進路指導	進路を見据えた探究活動と教科指導の一体化	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各教科の学習内容に進路や社会的テーマを関連付け、生徒が将来を見据えて主体的に探究する学習を充実させる。</li> <li>② 探究活動の成果を発表や振り返りにつなげ、教科で身に付けた力を自らの進路選択に生かす意識を高める。</li> <li>③ 探究活動と面談を連動させ、生徒が自身の適性或課題を整理し、主体的に進路を考えられるよう支援する。</li> </ul>	A
その他	学校評価アンケートの改善及び検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アンケート項目の目的や内容を精査し、教育活動の実態がよりの確に把握できる質問内容へと改善する。</li> <li>② 回収結果を分析・検証し、その成果と課題を教職員で共有することで、次年度以降の学校改善につなげる。</li> </ul>	B
	中途退学者の予防に対する対応と転編入学者を取り込んだ面倒見の良い学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 面談週間や日常的な声掛けを通じて生徒一人一人の状況を把握し、課題の早期発見・早期対応を組織的に行う。</li> <li>② 教育相談委員会を中心に、関係教職員・スクールカウンセラーが連携し、継続的な支援体制を構築する。</li> <li>③ 定期的に家庭へ成績や学校生活の状況を伝え、保護者との共通理解を図ることで、中途退学の未然防止につなげる。</li> <li>④ 転・編入学者を含む全ての生徒が安心して学校生活を送れるよう、個別の学習支援や生活面でのきめ細かな指導を行い、帰属意識の向上を図る。</li> </ul>	A